[redacted]

~~D-23~~
D-16 D-16

リオ・グランデ・ド・スール州内入植地営農状況

E700
.33
A171

に収録

海協連

703
234
EA
LIBRARY

リオ・グランデ・ド・スール州内入植地営農状況

リオ・グランデ・ド・スール州内入植地営農状況

理事長

国際協力事業団
受入月日 '84. 8. 14
登録No. 02921
703
23.4
EA

IV-27
P-
No.

~~(事務地資料)~~

海協連企画課

§ リオグランデ・ド・スール州内入植地営農状況

（サンパウロ支部ポルト・アレグレ 事務所の報告による）

1. 定着状況

定着状況

	サンペドロ近郊		リブラメント近郊		サンタ・マリア近郊		カマクワン近郊	
	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員	戸数	人員
入植者数	33(4)	195	7	39	25	150	18	116
現在者数	—	—	7	39	18	108	16	103

2. 営農状況

(イ) 作付面積　　（単位 ヘクタール）

		成績の良いものの作付面積	標準的なものの作付面積	成績のよくないものの作付面積
リブラメント	畑の場合	4	3	2.6
	水田の場合	10	（米作は1例に過ぎない）	
サンタマリア	畑の場合	4	2	1.5
	水田の場合	—	—	—
カマクワン	畑の場合	4	2	1
	水田の場合	23	15	（米作は2例のみ）

JICA LIBRARY
1024304[6]

(ロ) 主要作物の作付面積

サンタ・マリア，リブラメント，カマクワンとも主要作物はトマト，アルファセ（チシャ）を中心とする蔬菜であるが，一般標準作付面積は，トマトは耕地の2分の1（0.5ha～1ha 内外），アルファッセは耕地の4分の1（0.5ha～0.3ha）というところである。

残りの耕地にはキャベツ，人参，玉ねぎ，等を栽培している。なかには，昨年度の好成績に気を好くし，全耕地にトマトを作付しているものもあるが，これは極めて危険なことでその結果が気づかわれている。

なお米作を行っている者はカマクワンに2例，リブラメントに1例あるが，いづれも水稲を専業的に作っており，蔬菜栽培は行っていない。

(ハ) 主要作物の収量（ヘクタール当り収量）

地区及び作物名		標準的収量	特に成績のよい例	備考
リブラメント	米	80俵(枚)	100俵(枚)	機械によるバラ蒔き 播種10月・11月, 収穫5月・6月
	トマト	20,000kg		播種8月~12月(最適な時期) 収穫12月~4月(〃) 但し1年中播種し収穫している. アルファンヒは1月~7月に収穫するのが最適である。
サンタ・マリア	トマト	20,000kg		リブラ・メントと同じ
カマクワン	米	80俵(枚)	110俵(枚)	リブラ・メントと同じ
	トマト	20,000kg		

(ニ) 所有家畜数

各地区移住者とも極めて手のかかる蔬菜栽培に従事しているため, ほとんど家畜を所有していない。しかし, なかには自家用として野放しで鶏を数羽飼っているものもいる.

3. 営農収支概算

(1) サンタ・マリア地区 （成績上位のもの）

家族数　5名　稼働力 3

入植年次　1958年

耕作面積　4ヘクタール

歩合　移住者 70%　耕主 30%

（1958年7月～1959年6月）

収入	支出
野菜売上高 220,000 クルゼイロ (550.0 十円)	生活費 54,000 クルゼイロ (135.0 十円)
	種子代 3,000 (7.5)
	肥料代 12,000 (30.0)
	人件費 4,000 (10.0)
	雑費 5,000 (12.5)
	農機具代 12,000 (30.0)
	馬車購入費 18,000 (45.0)
	歩合支払高 52,000 (130.0)
	故国送金 30,000 (75.0)
合計 220,000 (550)	合計 190,000 (475)

差引残高　30,000クルゼイロ (75,000円)

サンタ・マリア（成績下位のもの）

稼働力　2

耕作面積　1.5ヘクタール

歩合　移住者 70%　耕主 30%

（1958年7月～1959年6月）

収入			支出		
	クルゼイロ	千円		クルゼイロ	千円
野菜売上	90.000	(225.0)	生活費	35.000	(87.5)
			肥料代	5.000	(12.5)
			種子代	1.000	(2.5)
			雑費	6.000	(15.0)
			移転費	3.000	(7.5)(註)
			器具費	2.500	(6.3)
			歩合支払	22.000	(55.0)
			送金	5.000	(12.5)
合計	90.000	(225.0)	合計	79.500	(198.8)

差引残高　10.500クルゼイロ（26.200円）

（註）サンタ・マリア管轄内である。

(2) カマクワン地区 (成績上位のもの)

家族数 6名 稼働力 3

入植年次 1958年

配分面積 50ヘクタール 耕作面積 25ヘクタール

(1958年7月～1959年6月)

収入			支出		
	(註) クルゼイロ	千円		クルゼイロ	千円
米収入	389.000	(972.5)	生活費	60.000	(150.0)
家畜収入	4.000	(10.0)	食費	45.000	(112.5)
雑収入	10.000	(25.0)	その他	15.000	(37.5)
			営農費	168.000	(420.0)
			施設資材費	24.000	(60.0)
			農具購入	17.000	(42.5)
			その他	7.000	(17.5)
合計	403.000	(1.007.5)	合計	276.000	(690.0)

差引残高 127.000 クルゼイロ (317,500円)

(註) これは耕主に歩合を支払った残高，即ち移住者の手取金である。

カマクワン地区　（成績下位のもの）

家族数　4名　　稼働力　2

入植年次　1958年

耕作面積　1ヘクタール

（1958年7月～1959年6月）

収入			支出		
野菜売上げ	47,000 クルゼイロ	(117.5 千円)	生活費	30,000 クルゼイロ	(75.0 千円)
			種子代	1,600	(4.0)
			肥料代	7,000	(17.5)
			運搬費	1,200	(3.0)
			医療費	5,000	(12.5)
			歩合支払	15,000	(37.5)
			雑費	3,000	(7.5)
合計	47,000	(117.5)	合計	62,800	(157.0)

差引損失　15,800クルゼイロ（39,500円）

（註）野菜の適地が少なく、また労働意欲がないため収穫に恵まれない。

(3) リブラメント

家族数　7名　稼働力　4

入植年次　1958年5月

耕作面積　2.5ヘクタール

(1958年7月～1959年6月)

収入		支出	
野菜売上げ	130.000 クルゼイロ (325.0千円)	生活費	36.000 クルゼイロ (90.0千円)
		種子代	2.200 (5.5)
		肥料	5.000 (12.5)
		開墾費	2000 (5.0)
		農機具購入	4.000 (10.0)
		運搬費	2.800 (7.0)
		雑費	5.000 (12.5)
		歩合支払	32.000 (80.0)
合計	130.000 (325.0)	合計	89.000 (225.0)

差引残高　41.000 クルゼイロ (102.500円)

4．生産物の販売と生活物資の購入

(イ) 生産物の販売方法

主な生産物名		主な販売方法	販売する場合の単位と単価		備考
			単位	単価（クロゼイロ）	
リブラメント	トマト	(註1) a．b	1 kg	15.00～25.00	
	アルファッセ	a．b	1 株	3.00～6.00	
	米	a	1 俵	450.00～550.00	（籾 1 俵 60 kg）
サンタ・マリア	トマト	a．b	1 kg	15.00～25.00	
	アルファッセ	a．b	1 株	3.00～4.00	
	人参	a．b	1 束	5.00～8.00	（1束 4～5本）
カマクワン	トマト	a．b	1 kg	15.00～25.00	
	アルファッセ	a．b	1 株	3.00～6.00	
	米	a	1 俵	450.00～550.00	（籾 1 俵 60 kg）

（註1） a＝庭先で商人に売る。

b＝個人が市場に運搬して売る。

（註2） 各地区とも蔬菜は，大部分個人が市場に運搬して売っているが，一部は庭先で商人又は需用者に直接売っている。

町の中心から比較的近いところで営農を行っているものは大部分を庭先で需要者に直接売り，更に他移住者の分を委託販売している例もある。（カマクワン）

然しながら多くの場合は、週に2～3度、町にたつフェイラ（市場）に運び販売している。

(ロ) 主なる市場

a) カマクワン

人口　約7,000名

町の中心から最も近いところに住んでいる例　1キロメートル

〃　遠い　〃　30キロメートル

市場から遠い者は、一部を庭先で需要者に直接売り、一部を商人に売っている。又、将来トラックを共同で購入し、ポルト・アレグレ迄進出する計画が立てられている。

b) リブラメント

人口　約35,000名

町の中心から最も近いところに住んでいる例　1キロメートル

〃　遠い　〃　60キロメートル

当地では協力して販売に当っているから値段の協定、搬出等お互いに申合せを行い、充角悩まされていた現地商人に対抗し成果をあげている。

市場から遠い者は，パトロンに販売を全部依頼している。現在迄のところでは，パトロンが委託販売手数料をとるようなことはなく，生産物の売値に基ずいて，六分四分で半年毎に清算している。

(c) サンタ・マリア

人口　100,000名

町の中心から最も近い例は　約1キロメートル

〃　　遠い　〃　約12キロメートル

市場への運搬はパトロンからトラックを借りたり，自分の荷車で運搬したりして町のフェイラで販売している。

前述の三地区とも住宅から市場迄の道路はいづれも舗装されているか，または砂利敷きの良い道路で生物物の搬出に困るようなケースは皆無である。

(ハ) 生活物資の購入

(1) カマクワン

入植初年度は

a) パトロンが生活費として月に4～5コントを支給し，入植者が各自附近の市場から購入する。

b) パトロンが入植者の要求に従い現物を支給する。

の2つのケースがあり，各自の都合によりパトロンと話しあって取極めている。

a）は稼働力が比較的少く，又携行資金の少い家族の場合，生活費をきりつめ，残りの金を営農資金に流用したりするのに都合が良く，又自分の好みの食物等を購入することが出来る。

b）はパトロンがパトロン自身及び他のコロノ達の生活物資を一括購入するので，必要物資は安価に手に入るが，パトロンが移住者からの依頼物資を忘れたりする場合が多く面倒を起し易い。

今年度は現在のところ昨年度と同じような購入方法をとっているが，既存の外人運営による組合に全員加入したことから，おいおい直接組合を通じて物資を購入していくものと思われる。

(2) サンタ・マリアではカマクワンの場合と同様な方法により物資を購入していたが，33年度末には大部分の営農収支が黒字となり，現在では自己資金中から各自生活物資を購入している。

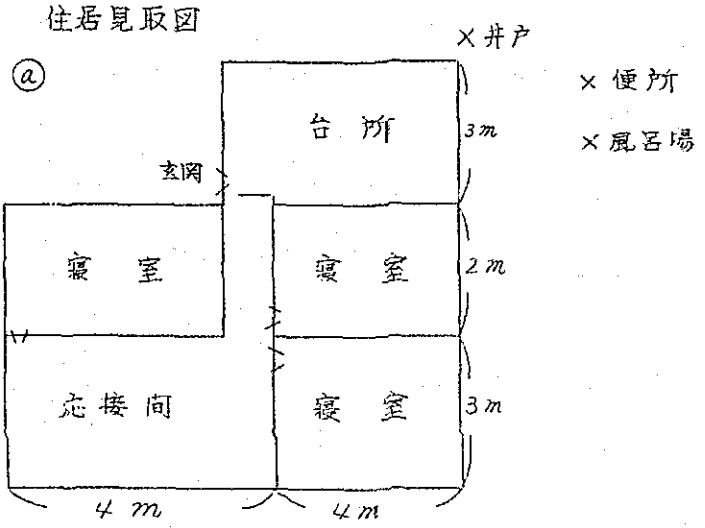
(3) リブラメントはサンタ・マリアと同様な過程を経て現在は同地区と同じ方法によっている。

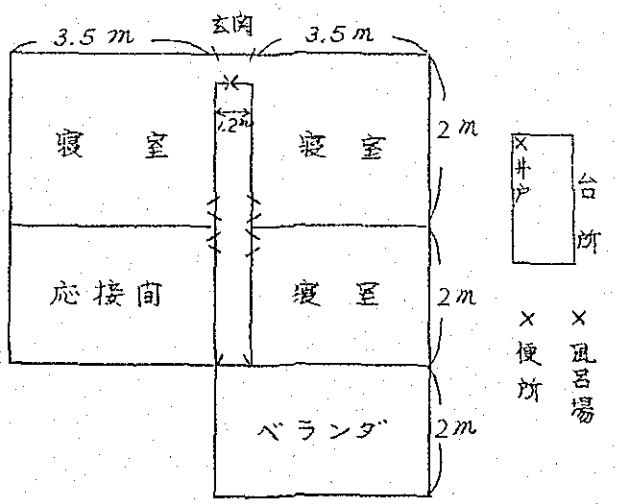
5. 生　活

(イ) 住　居

a. 見取図

住居見取図





ⓐ ⓑ は当地のコロノ住宅の標準的なものである。

普通は木造，瓦葺であるが，中には煉大造りのもある。

これらの住宅は主として被使用者を居住させるために建てたものであるが，比較的間数の多いのが特徴である。

多くの場合，便所及び井戸は家屋の内部又はすぐ近くに設置されているが，風呂場は自分で据付けなければならない。

b. 飲料用水及び光源等の設備

飲料用水は各家屋に井戸があり，光源は一部は電気，他はランプである。なかにはパトロンの好意で，わざわざ電気を引いてもらった例もある。（サンタ・マリアの例，費用はパトロン負担）

c. この州では移住者はすべて分益農であるから，パトロンの所有耕地内に家屋を建造した例はなく，各移住者はパトロンがあらかじめ準備している家屋に入っている。

（分益農の場合は，家賃を支払う必要はない。）しかし，各人の好みもあるため，建増し，改造等をする場合が多くまた家財道具（机，椅子，寝台等）も準備されているものでは不足することが多いから，大工道具を持参してさた方が良い。普通パトロンは建増し，改造，家具の製造に要する材料は提供してくれるが，労力及びそれ以上の金銭的支出は行なわない。

d. 建築材料

木造，石造，練瓦造り等があり屋根は瓦ぶきである。

(ロ) 教　育

a) 小中学校の児童は，大部分当地の小学校低学年に編入される。当初 3ヶ月～6ヶ月は言葉がわからず相当苦労し，高学年の者の中には，低学年児童と同じクラスで勉強しているにも拘らず，途中で脱落する者が多い。然しながら，当地の子供と比較した場合，日本人児童は理数科目面では特に優秀な成績をおさめており，大部分が半年後には日常会話に不自由をきたさぬ程度迄にブラジル語を解するようになっている。

今のところ中学に進学している者はサンタ・マリアに一例があるに過ぎない。授業内容は小，中学何れも日本と比較して程度が低い。

文房具・本の購入等に要する年間支出は児童1人に対し約300クルゼーロ～500クルゼーロ位である。

なお，学校が自宅から最も遠い例は，約5キロである。

b) 現在の教育の問題点

通学上の困難

市郊外には，分教場があるが，こゝは小学3年程度迄の児童を教育し，3年以上の学童は，市内の学校に通学しな

ければならない。今のところ入植後の時日が浅く，移住者の子供は大部分が低学年に編入されているので，問題はないが，明年頃から通学上の問題に頭を悩ます父兄がでてくるものと思われる。

(ハ) 医療衛生

a. 入植者の健康状況

当地は気候が日本と類似しているためか大部分の健康状態は良い。

特記すべき風土病はない。

b. リオ・グランデ・ド・スール州は全般的に医師の配置が良く，また移住者は大部分が都市の近郊に居住して蔬菜栽培を行っているので 急患の場合にも時間的には充分間に合う所に医者が居住していると見てよい。

c. 問題点

医療，衛生費用が高いこと。

例．初診料 Cr$ 500.00 ～800.00 (1,250円～2,000円)

盲腸手術 最低 Cr$ 3,000.00 ～ Cr$ 5,000.00 (7,500円～12,500円)

出産 同上

抜歯 最低 Cr$ 150.00 ～200.00 (375円～500円)

したがって家族内に入院手術等を要する病人がでると，支出もかさみ，また稼働力も減少するから，立ち直るまでに半年から1年の期間を要する。

（パトロンによって医者の手配から，医療費の貸与までしてくれる場合もある。）

6. 移住者の組織

(a) カマクワンでは，移住者は本年5月既存の外人組合に加入した。現在迄のところ，移住者は組合から何等の恩恵も受けていないが，事情がわかり，また，言葉も理解できるようになれば，今後は期待できる。

サンタ・マリアでは組合結成の動きはあるが，未だ結成されるまでには至っていない。

ポルト・アレグレでは市内及び近郊邦人で結成された日本人会で組合結成の話もでたが，指導者が旧移住者で，すでに自分達の購買及び販売網を有しているため，組合の必要性を認めず，組合結成の意志をもっていない。

リブラメントでは販売組合結成の動きがみられたが，まだ正式な組合法人としての組織にまでは発展していない。しかしながら，販売中合せ及び協力団体として，従来の外人商人の独善的な市場独占に対抗し，相当の成果をあげている。

(ﾛ) 現在のところでは新移住者が既存の外人の組合に加入したり，新組合を結成したりしても，言葉がわからないので組合の運営利用等を円滑に行うのは難かしい。

7. 営農及び定着の見通し

イ) この地方の営農形態は蔬菜，果樹，米作（水田）及び養鶏の分益農を主とするもので，日雇又は給与による例はきわめて僅かである。（カマクワンにサンパウロから移動してきた単独青年3名が給与にて就労しているが，同時に就労時間以外の時間を利用して歩合で蔬菜栽培を行っている。）

分益農は初年度の場合，4分6分（移住者取分）又は，5分5分で，パトロンは移住者の生活費を前貸し，肥料，種子，農機具等の必要支出分については，収穫後折半して負担する。なお，サンタ・マリアでは7分（移住者取分）3分の好条件で入植している例（3例）もみられるが，これは極めて恵まれた例と言えよう。

第2年度になると，初年度に収益の大きかった移住者は，生活費はもとより，肥料，種子，農機具等，営農に必要な支出をパトロンを煩らわすことなく，移住者が全部又は一部を負担し，7分3分と条件を良くして分益することとなる。（カマクワンの例），この場合，生活費を除く，他の営農必

要支出は，収穫後パトロンと折半するのは言うまでもない。

更に収益をあげていけば，借地農又は独立農として発展するわけであるが，今迄のところ旧移住者を除いて借地農の例は新移住者の中にはみられない。然しながら，サンタ・マリアでは，本年末頃迄に土地の購入（3 ha ～ 5 ha）の見通しをつけている者もある。

(ロ) 昨年度から今年度にかけ，全般的に新移住者の営農成績が良かったため，サン・ペドロの全員退耕の例を除き，こゝ1年間のリプラメント，サンタ・マリア及びカマクワンの定着率は80％の高率を示している。

その他，前記耕地以外に，呼寄で入植している移住者の例を加えると，定着率は90％以上にのぼるものと思われる。

しかし，分益農の性格から言って1耕地での定着は2年から3年が普通であり，本年度あたりから，言葉，事情等を理解し，経済的にも力を蓄えた移住者は，よりよい条件の分益農・借地農又は独立農として，移動・発展していくものと思われる。

8. 今後の移住者の受入見込

大量に移住者を1耕地に導入することは，サンペドロ及びジュスチーナ耕地等の例から判断し，極めて危険である。

したがつて，現在のところ小数家族を州内の主要な各都市近

郊に除々に導入し，これを養成する方針をとつている。

将来，このようにして，この州全域にわたり分散的に導入された移住者が，各地で強固な基礎を築きあげていけば，これら移住者のあつせん，指導により，日本から更に多くの移住者が安心して後続することは必至であり，現在のサンパウロのように，あるいは当地のドイツ，イタリア系移民のように，先住の移住者が呼び水となつて，後続の日本人移住者を，むしろ歓迎されながら，州内全域に浸透させていけるものと思われる。

また，この地方の外人耕主達は，日本人農業者の養鶏及び果樹手入れ技術を高く評価しているので今後はこうした方面への進出も大いに期待される。